

## 最低夜温 5℃管理における

### 普通ナス 3 品種の生育および収量特性

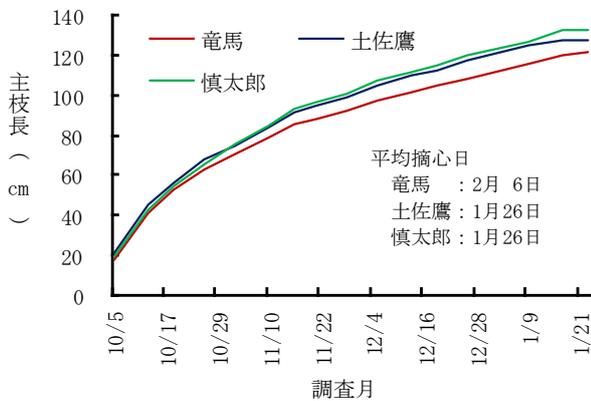


図1 主枝長の推移

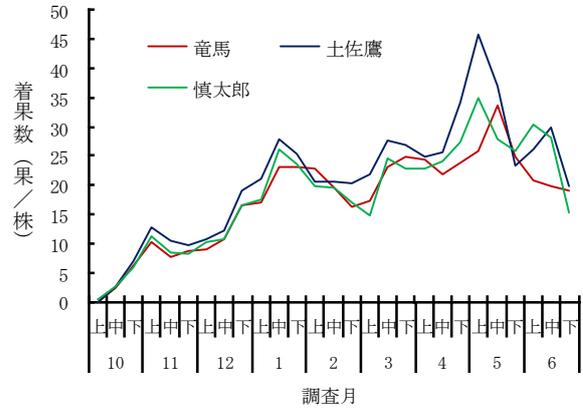


図2 着果数の推移

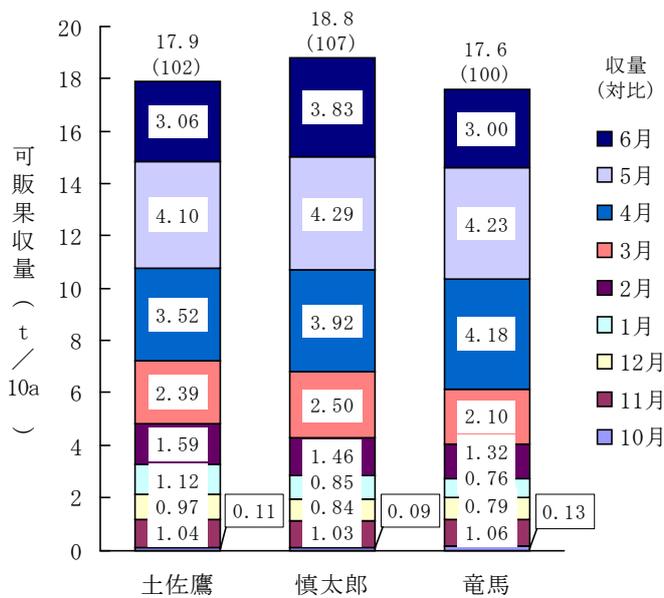


図3 収量の推移

表1 収穫所要日数の推移

開花月	土佐鷹	慎太郎	竜馬
11	29.6	28.2	28.7
12	32.1	29.0	29.0
1	30.3	27.9	28.3
2	24.3	22.7	23.0
3	23.9	22.7	22.6
4	21.9	19.4	19.0
5	20.7	18.0	18.9
6	18.2	17.0	14.9

注 1) 台木: ‘トナシム’、定植: 2017年9月13日、うね幅: 180cm、株間: 60cm、仕立方法: 3本仕立て、収穫期間: 2017年10月25日～2018年6月29日  
 2) 日中の午前中を20～25℃、午後を28℃を目標に換気。夜間は5℃以下にならないよう加温。

農業技術センターでは、ナスの栽培環境が機能性成分の含量に及ぼす影響を調べています。今回は管理温度の影響を調べる目的で、普通ナス3品種を最低夜温5℃で栽培しました。その際に得られた各品種の生育と収量特性をご紹介します。

‘竜馬’に比べ、‘土佐鷹’と‘慎太郎’では主枝長がやや長く、着果数は‘土佐鷹’で多く、‘慎太郎’ではほぼ同等かやや多く推移しました(図1、2)。  
 ‘土佐鷹’と‘慎太郎’は、‘竜馬’に比べ

て10～11月の初期収量が少ないものの、12～3月には収量が多く推移しました(図3)。また、‘土佐鷹’では収穫までの果実肥大に要する日数が長くなる傾向がみられました(表1)。

なお本研究は、革新的技術開発・緊急展開事業「新規機能性成分によるナス高付加価値化のための機能性表示食品開発」の中で実施しました。

(先端生産システム開発担当 北山みずほ 088-863-4918)